

古田 偉佐美 (ふるたいさみ) ● 農事組合法人木の花ファミリー理事、社会福祉法人伯寿会理事、静岡県養蜂協会理事、NPO法人青草の会理事 60歳。静岡県富士宮市在住。

25歳から建築内装業を自営していたが、生活の糧となる事業が環境汚染を招く矛盾を感じ、40歳を機に事業を整理。1994年に仲間たちと富士宮市に移住、「木の花農園」を創立。現在は養蜂のかたわら、来訪者の人生相談や心身のケアの「主治医」をつとめる。



ケビンも感動した
ウエルカムコンサート

ここに、穏やかでやさしい 自給自足の 共同生活がある

富士山麓
木の花ファミリー

1993年、古田偉佐美さんが数々の啓示を受け、富士山麓に設立した自給自足の共同生活（エコビレッジ）。そこでは農業（循環型農業）をする人、加工食品を作る人、食事を作る人、育児・教育をする人など、それぞれが自然と調和し、穏やかな時間の中で自らの役割を果たしています。そこはワンネスの実現を目指す実践の場でもあり、血縁を超えた大家族が自然と調和して生きる共同生活は、新しい時代の社会のあり方として、いま世界からも注目されています。仲間の皆と一緒に農業に汗を流す「いさどん」（古田さんの愛称）にこれまでの経緯などをお聞きしました。

啓示により、 多くの悩みに応える

中西 先ほどはウエルカムコンサートを開いていただき、ありがとうございます。みなさんの実践している喜びが伝わり、こちらもその一体感に包まれ、感動のあまり涙が出そうになりました。木の花ファミリーさんが行っている自給自足の共同生活（エコビレッジ）を始めるまで会社経営をされていたにもかかわらず、どういった経緯があったのでしょうか？

古田 私は岐阜県美濃市の旧家の生まれで、ご先祖様や両親に対する思いが非常に強かったのです。それで20歳で内装業の仕事を始めましたが、先祖や両親を喜ばせることが私の喜びでもありましたから5年で独立して成功し、人生が非常にスムーズにいったのです。19歳のときから、頭の上に亡くなった私のおばあさんの存在を感じていましたから、人生がスムーズにいくのは先祖の守護によるものかと思っていたのです。ところが30歳の12月26日に、今度は頭の上に男性が現れて、次第にそ

の人は黄金に輝く仏像に変わられ、そこに尊い光を感じたのです。「この世にはただ意味もなく尊いというものがあるのだ」と、わけもなく涙があふれて半日ほど泣いたことを覚えています。

そんな経験をしてから不思議な現象が起きるようになり、人の心が観えるようになったのです。それでうつ病や人間関係の悩み事などの相談を受けているうちに「人間の抱える問題は心の中にある種が芽吹いて出てくるもので、その種を消化していくことによって一歩一歩成長していくものだ」と気づいたのです。問題事は成長するためのチャンスなのですね。いちばん不思議だったのは、まだ30年ほどの人生経験しかない自分から、出るはずのない言葉が次々に出てくることでした。まるで自動書記のように勝手に言葉が出てくるのです。その言葉に自分自身が学んでいるようでした。しかし、それを学べば学ぶほど、もう一人の自分との葛藤が生じるのです。つまり会社を大きくしてリッチな生活をし、親孝行したいという願望のある自分なのに、自分から出てくる言葉によってことごとく否定されてしまうので



中西研二(なかにしけんじ)●1948年東京生まれ。NPO法人「JOYヒーリングの会」理事長。有限会社いやしの村東京代表取締役。ヒーラー。ワンネストレーナー。新聞記者、セールスマンなどさまざまな職業を遍歴の後、1993年に夢の中でヒーリングを伝授され、以来17年間で20万人を超える人々を癒し続けている。また、2004年9月にワンネスユニバーシティでワンネスディクシャという手法を学び、以来、この手法を通して、多くの人々がワンネスの体験を得る手助けをしている。著書に「そのままでオッケー!」「悟りってなあに?」「あなたはわたし わたしはあなた」(共にVOICE刊)がある。

古田偉佐美氏

Fruta Isami x Nakanishi Kenji

中西研二



『心を耕す 家族の行く手』
発行/ロコス社 発売/本の泉社

す。つらい日々でした。そのよ
うな葛藤の中で、次第にわかっ
てきたことは、自分を縛ってい
る欲望(我執)から解放するこ
うことでした。そのようにい
る。いろいろかされていくうちに、
心の学びをしたいという人が集
まり、木の花ファミリーの母体
となる「心の勉強会」ができた
のです。

共同生活はワンネス 精神の実践の場

中西 「心の勉強会」の延長線
上に木の花ファミリーがあるの
ですね。

古田 そうですね。当時、私
がいちばん問題に感じていたの
はお年寄りが人間関係の希薄な
老人施設で人生の終焉を迎える
こと、それから自殺者が多いこ
とでした。そういう人たちが、
どうすれば誇りを持って生き、
そして希望のもとに死を迎える
ことができるのかということだ
りました。いろいろ考え学んだ結果、
いちばん大切なことは「命の調
和(調和の心)」ということに気
づいたのです。自然と人が調和
して生きる生活です。特に日本
は戦後(1945年以降)、調和

を無視した対立の生活をしてき
たわけですね。ですが人間は本
来、自然と調和したワンネスの
精神を実践しなければいけない
のです。しかし、それをどこで
やればいいのか、と思う
ていたときに、神(天)から言
葉が降りてきたのです。「富士
の山に登り、日本の本の頂点
に立て。そして日の出前に神の
命を受けよ」と。言われたとお
りに富士山に登ると今度は「そ
の心、日の本全体に説くが良い」
というメッセージがあったので
す。日本の本とは日本のことを指
しているのではなく世界、地球
のことだったのです。メッセージ
をいただいた3年後に実践の場
としてここ(富士宮市)で共同
生活を始めたのです。

中西 ひとつの道に辿り着く
ように作られたストーリーを感
じますね。だけどご家族は最初
からこの計画に賛成だったんで
すか。

古田 とんでもない(笑)。特
に父には「世界はこんなに広い
のにお前一人何ができる?」
と言われ、私はこう答えたので
す。「私一人でも少なくとも60億
分の1の世界を変えられる。そ
れが二人になり三人になれば、

やがて60億分の60億になるだろ
う」と。父は呆れていましたけど。
最初は自分の田舎に戻って

人々が助け合う共同体、つまり
人の喜び、社会の喜びを自らの
喜びとする菩薩の里を作ろうと
準備していたのです。しかしこ
のとき、「世のため人のためとい
いながら自分の先祖に固執して
いるのではないか。これこそが
了見の狭い話で、すべての人の
命は一繋がりであり家族なのだ」
と気づいたのです。そこでご先
祖様への思いが解放され、富士
山麓へ向かうことができました。

神は人類の成長のため に対極の世界を作った

中西 私がいちばん感動して
いるのは、ここではそれぞれが
自由にしながら共同生活が
成り立っていることなのです。
ルールがあるようでないような
…。このような形はみなさんで
話し合って決めたことなので
すか。

古田 それは、私が神の意志
に委ねているからかもしれませ
んね。世界のすべては神の意志
により現象化されていると仮定
すると、われわれは生きている

のか、そもそも生かされているのか。ずっとそのことを探究してきましたが、生きているという要素をひとつも見つけられなかったのです。つまり、すべては生かされている、ということなのです。われわれの個人的な目的もすべて神が世界を演出するためにあり、そうすると、人間の願望や目的もすべて神（天）が所有していることとなります。この地球という舞台の上でわれわれは役者であって、同時に観客であるという立場なのです。その立場を知ったときにそれぞれの個人の意志は存在しないことに気づいたので、だからここでは、見通しは立てるけど予定は立てません。この世はどのようにでも変化することも

のですから、一生懸命努力したところで流れが変わったなら、たちどころに切り替えます。それが自然の本来の姿だからです。そうすることで執着から解放され、ここでは自由な生活ができていないではないでしょうか。

古田 それには、この世（宇宙）の仕組み（法則）を知るといいですね。宇宙の始まりは「善と愛と調和」の神の心、光の世界だけがあつたはずなのです。でも人類の歴史を見ると「争い」と「悩み」の繰り返しです。それで神様に聞いたのです。「あなたの作ったこの宇宙は完成品なのですか、それとも失敗作なのですか」と。すると「光の中では光は見えない。愛の世界では愛を感じられない。調和の世界では調和に気づかない。だからすべてのものに対立するものを作ったのだ。『悪と孤独と不調和』の中で『善と愛と調和』を希求し、それに出会えたときに、そこに『喜び』が生まれる。私はその『喜び』を食べ物にしている」とおっしゃったのです。

古田 四苦八苦ですね（笑）。
中西 そうですね。あらゆる

新しい時代の
モデルケース

中西 それはよくわかります。そのとおりですね。しかし現代の社会現象を見てもはつきりしているのですが、人類は今、その「喜び」へたどり着く前に「葛藤」の結果として大きなひずみを生み出していますね。

古田 ここでは問題（葛藤）が起きたときに徹底的にその奥にある善を探そうとします。どんな理不尽な状況でも奥には必ず善があります。その善を知ったときに悪は解消され喜びに変わるのです。起きた問題はすべて善を知ったときの喜びを得るためにあります。私たちは常にその視点に立っています。目的さえ見失わなければ、どんなに心を痛めて葛藤したとしても、その分だけ深く、この問題を与えてくださったと気づくでしょう。そのとき、特定のマイ

中西 体験をすることによってそこに喜びを感じるというのは、私も非常に重要だと思えます。その方法をこちらではミーンティングをすることで循環させているのです。話し合いをするというのは相手の立場に立って物事を考えることができる。つまり相手を体験できるということですね。どちらが良いか悪いかではなく、どちらの立場も体験できる。それはすごく大事なことで、それは神の意志にも通じるし、神がもつとも望んでいることではないですか？ ここではそれを一人ひとりがそれぞれの特性を活かし、自信を持って具体的な生活の場で発揮していることがよくわかります。

古田 これからは一人ひとりが目覚めて、みんなで世の中を作っていく時代ですね。私たちは新しい社会のモデルケースとして提示できればいいと思っています。

中西 これからの時代、こういう形の社会構造になっていく可能性は大いにありますね。まさに新しい世界の夜明けを実感します。今日はお忙しいところありがとうございます。（合掌）



抗生物質を使用しない香り高い蜂蜜作り

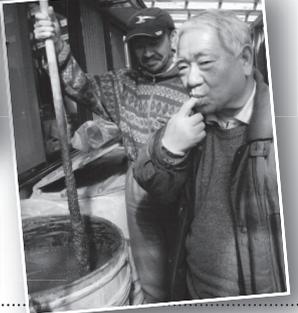
木の花ファミリーの生活



穫れたてのサツマイモをふかして乾燥宇に



自分たちで作った野菜で、さあランチだ！



取材の日にごちそうになった豪華な健康弁当

昔ながらの醤油絞りの技法で、美味しいもろみをちよつとお味見

つまり、悪から善へと対極の世界を体験することで「喜び」が生まれるということですから、喜びを得るためには、マインド（自我）も必要なんですね。

うにしています。